

My least favourite time of the year !!



こんにちは、スタッフのRieです。そろそろ春が待ち遠しい時期になって来ました。私は1月の終わりから2月の始めが **My least favourite time of the year** (一年で一番好きではない時期)なので、毎日毎日春の訪れを待ち、早く暖くなるのを期待したりしています。この時期、12月より寒く感じるし、クリスマスや年末などのウキウキするイベントがないと言う事もあります。春節や節分はあるので、そういったイベントを楽しみにしている方には申し訳ないですが、。そんな寒いお休みの日、友人の写真の展示会を観る為に横浜の山手に行って来ました。(先月号にお知らせした写真の個展です) 幸いその日は晴れていて、とても気持ち良く、暖かく感じる冬の日でした。最後に山手の「港の見える丘公園」に行ったのはいつだろう、?なんて考えていましたが、最後に行ったのは車の免許を取ったばかりの二十歳の頃、友人と(女性の友人なのでデートではないですよ。笑)貯金で買ったばかりの軽自動車で港北インターから第三京浜道路に乗り、保土ヶ谷インターで降り、あとは下の道を地図を頼りに(もちろんカーナビなんてない時代だったので)

あっちだこっちだとやっと着いたような、。公園に着いて、近くの駐車場に駐車、そろそろ薄暗くなって来た横浜の景色を観た気がします。あれから十年が経ち、今では電車路線が増え、あざみ野から横浜に行って、「みなとみらい線」の元町・中華街という駅で降り、エスカレーターをぐんぐん上がって改札を出ると、もう公園の横に出ます。随分便利になりましたね。以前は、電車で行くととなると根岸線で石川町駅まで行き、元町を見ながらまっすぐしばらく歩き、途中から坂道をテクテク登り、丘の頂上まで上がった記憶があります。もちろんそういった **Scenic Route**(景色があって趣きがある道筋)はまだありますし、住宅街を散策するのは面白いです。

今回はその友人の個展が行われる山手 111 番館という建物を目指して行きました。その日は、港の見える丘公園からの景色も素晴らしく、隣のローズガーデンはバラの季節はさぞかし素敵なんだろうなあ、なんて想像しながら、水が流れる石の水路みたいなものを見ながら進むと、右手に山手 111 番館の素敵な建物があります。実は私たちは横から入ってしまったようですが、表のワシン坂通りからはちゃんと立派な門があります。実を言うと比較



的に近い関内が実家でありながら、この建物に入ったのは初めてでした。以前から名前は知っていて、隣にイギリス館もあり、そこはもう外国のようなのですが、このスパニッシュ風の建物は 大正 15 年にアメリカ人ラフィンという方の住宅として建てられたようです。戦前とは知っていましたがそんな前だったのですね。設計したのは J.H.モーガンと言う設計士で、彼の代表的な作品とされています。もちろん、中は見学出来るようになってます。そして、嬉しい事に無料！時折ちょっとしたクラシック音楽のコンサートとかクラフトなどの展示会、そして今回の友人のような写真の展示などを行なっています。そういった催し物を見るのも良いのですが、この建物の中がとっても素敵なのです。外観は赤いレンガに白い壁で、シンプルな創りなのですが、中に入ると、インテリアは重厚感ある落ち着いたこげ茶で統一され、柱のない回廊、吹き抜けの素敵なホール、家具の彫刻なども凝っています。そして、キッチンに入ると、これがまた洋風(当たり前ですが、笑)で、高い位置にこちゃこちゃした収納場所があり、窓の向こうは景色が広がり、木々の間から海がチラッと見えそうな感じ、。そしてその台所と

ダイニングの間の壁に食べ物を運びやすいように上下に開け閉めするドアが付いています。そして、バスルームには映画によく出て来るような脚が付いている置き型バスタブがあるので。(私、この足付きバスタブ大好きなのでよね。笑) 壁と床のタイルの一部は建てられた当初のオリジナルのようです。こんな素敵なお屋敷に住んでいたなんて。ラフィン氏の家族構成などの **Family tree** (家系図) やこの洋館についてのさらに詳しい事は、資料室がありますので是非見てみてください。今回私の友人が個展をやった部屋はティールームだったのでしょうか？窓からの景色が本当に素敵です。桜の季節には窓から桜、そしてバラの季節にはバラ園、友人が個展を行なった週は小雪が吹き荒れたみたいで、とっても綺麗だったよ、。と言ってました。様々な季節が楽しめそうですね。是非皆さんもこちらの山手 111 番館、見学して頂きたいです。ちなみに桜木町から「あかいくつ」周遊バスも出ていて、『古き良きヨコハマ』を巡る、中華街を経由して港の見える丘公園 C ルートと『新しいヨコハマ』を巡るカップヌードルミュージアム、ワールドポーターズなどを回る M ルートがあります。昔、このバスは 100 円だったのですが、今は通常のバスと変わらなくなってしまったようです。でも、赤いレトロのバスが可愛いので、もし外国人のお友達を横浜に連れて行くとか、横浜は初めてです！というご友人をご案内するのでしたら、1 日乗車券を買ったりとか、ベイエリアの市営バスや市営地下鉄 1 日乗り放題が付いたみなとぶらりチケット(新横浜からはみなとぶらりチケットワイド)もお得です。山手には先ほど書きました横浜市イギリス館、エリスマン邸や大佛次郎記念館もありますので、建築等に興味がある方には見所は沢山あります。





みなさんこんにちは! 寒い寒い2月ですね。受験の方も多いと思いますが、こんなピリリとした季節に受けるからこそ、身が引き締まって確かな実力を出せるのでしょうかね!? 勉強でも仕事でも本来の実力を出せるように、体調にだけは気をつけたいですね。そんな寒い2月だからこそ、心がほっこりと温まる本をご紹介しますと思います。早速ですが1冊目は、小川糸著『ライオンのおやつ』です。先月号でもお話ししたのですが、父親が前立腺癌になって「死」を近くに感じたためもあってか、出会う本が「命」とか「生き方」とかの系統になってしま

うようです(笑)。けれどこんなことは聞いたことありませんか? 「寿命があと一週間だったらどう生きますか? その時の気持ちで今を生きるとより良い生き方ができますよ」って。こんな感じで生きれば、例えば、大いびきをかく夫を疎んじている奥様でも、「あともう少ししか生きられないのね...。このいびきも聴きおさめだっと思って考えると、少し寂しいわねえ」と感じてしまったりするかもしれませんし、「おい!!お茶」と威張っている夫でも、奥様としては「しょうがないわね。あともう少ししか生きられないんだから、優しくしてあげようかな」なんて思うかもしれません。それにしても男性の方だけが悪くなってしまう例えしか思い浮かばないのはなぜでしょう? 余談はこの辺にいたしまして、この小川糸さんの『ライオンのおやつ』、もしかしたら、小川さんが一番言いたかったことなのかも、しれないと思いました。人生の最後に食べたいおやつは何ですか? 若くして余命を告げられた主人公の雫は、瀬戸内の島のホスピスで残りの日々を過ごすことを決め、穏やかな景色のなか、本当にしたかったことを考える。ホスピスでは、毎週日曜日、入居者がリクエストできる「おやつの日」があるのだが、雫はなかなか選べずにいた。食べて、生きて、この世から旅立つ。すべての人にいつか訪れることをあたたかく描き出す、今が愛おしくなる物語。(内容説明より)

私は、ここに来て初めて、眠れない夜を過ごした。ホスピスの仲間の死を、末期がんの雫は涙した。(pg. 105) 「私、もっと生きて、世界中のいろんな風景を見たかったなあ」今まで、誰にも言ったことがない、自分自身にも、大っぴらにしたことがない、ずっとずっと目をそらして来た本当の気持ちが、不意に口からこぼれ出た。それを認めてしまったら自分が苦しみだけだから、丁寧に封印していたはずなのに。(pg. 156) でも本当のところでは、まだ死にたくない。私はもっと生きたい。そう思うことが、欲張りみたいにも感じていた。往生際が悪くて、みっともない。でも、そうじゃない。死を受け入れる、ということは、自分が死にたくない、という感情も含めて正直に認めることだった。(pg.157) 雫は声を張り上げて泣いた。涙が尽き果てるまで泣いた。そして、「一日一日をちゃんと生き切る。どうせもう人生は終わるのだからと投げやりになるのではなく、最後まで人生を味わい尽くすこと。(中略) 端から



端までクリームのごっしり詰まったあのチョココロネみたいに、ちゃんと最後まで生きること」これが彼女の「今の目標」になった。(pg.159) 彼女の「今の目標」ってまぶしいですよ。僕も、絶対に訪れる死を意識して丁寧に生きて生きたいと思いました。もう一冊のオススメは、たかのてるこ著『生きるって、なに?』です。写真家でもあるたかのてるこさんが、世界各地で撮った笑顔の写真と無駄を削ぎ落とした文章でつづります。

- Q. 生きるって、なに?
 A. 生きるって「自分を丸ごと愛する」こと
 Q. 「自分を丸ごと愛する」って?
 A. それは「自分を大事にする」こと
 Q. 「自分を大事にする」って?
 A. それは「幸せになる」こと
 Q. 「幸せになる」って?
 A. それは「自分をイジメない」こと
 Q. 「自分をイジメない」って?
 A. それは「人と比べて自分をダメな人間だと思わず、毎日自分を抱きしめる」こと
 Q. 「人と比べて自分をダメな人間だと思わず、毎日自分を抱きしめる」って?
 A. それは「好きなことをして楽しむ」こと
 Q. 「好きなことをして楽しむ」って?

こんなふうに、1ページずつQ&Aの形で進んでいきます。お読みいただく前に、自分なりの「生きるって、なに?」を書いてみて比べて見ると面白いと思いますよ!!



すみません、もう一冊! この2冊を読んだらついでにこれもどうぞ♪ 瀬尾まいこ著『そして、パトンは渡された』です。主人公は、血の繋がらない親の間をリレーされ、4回も名字が変わった森宮優子、17歳。当然、そんな娘って不幸に違いないと思いますよね?! でも、ぜんぜん幸せなんです。いつでも両親を愛し、愛されていた。他人を大切に、他人から大切にされるって、具体的にはこういうことなのかもしれないなあ...と、妙に心に残りました。感動した言葉: 「本当に幸せなのは、誰かと共に喜びを紡いでいる時じゃない。自分の知らない大きな未来へとパトンを渡す時だ」(pg. 372) まとめ小林義和

Rie's English Column

adjective order (形容詞の順番)	
Opinion	主観
Size	大きさ
Age	古さ
Shape	形
Color	色
Origin	出身
Material	素材
Purpose	目的

以前、形容詞の順番についてお話しを少ししたかもしれませんが、今回はわかりやすいこちらの表を見つけたので、何か名詞(物・人)を”describe”(記述)する時に使って頂きたいと思います。まず、Opinion(主観)とされるものはご自分の意見や一般的な事を表す形容詞になります。beautiful, interesting, または delicious 等、、。そしてサイズ、、big, small, tall,..。そして、古さという Age. old, new, antique(古風な)、そして Shape(形) round, oval, triangular(三角)など、そして Colo(u)r(色)になります。Origin というのはその物・人などの出身や地域的なもの、Japanese, Asian, European などです。その後素材という Material になります。wooden, paper, silk などなど、、。最後が目的という Purpose になっています。wedding, ceremonial(儀式用の) ここでは不定詞(to+動詞)も使われますが、その場合は名詞の後に来る感じですよ。形容詞は名詞を修飾する品詞ですので、物や人を describe するには最後に名詞が必要ですよ。今月号に出て来た山手 111 番館に素敵なピアノが置いてあったのですが、仮にそのピアノを describe するとすると、
a beautiful antique brown European wooden piano to use for special events (長い!) となる感じでしょうか?! 無理やり色々形容詞を入れましたが、、笑。それに、近くでよく見なかったので European かどうかも不明です。笑
 この表を意識すると何をどこに持ってくれば良いかがわかる気がしますね。それでは今回はこの辺で〜。See you next month!